

評価シート 様式

取組名	長寿医療の先進地を目指す地域在宅医療ネットワーク構築事業		
実施団体名	国立長寿医療センターを中核にした地域活性化委員会	対象地域	愛知県大府市、愛知県知多郡東浦町（国立長寿医療センター）
(代表団体名)	社団法人 先端技術産業戦略推進機構	推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかつたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	長寿医療の先進地を目指す地域在宅医療ネットワーク構築事業		
実施団体名	国立長寿医療センターを中核にした地域活性化委員会	対象地域	愛知県大府市、愛知県知多郡東浦町（国立長寿医療センター）
(代表団体名)	社団法人 先端技術産業戦略推進機構	推薦団体名	

⑤ 総合 評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 「国立長寿医療センター」を中核として、在宅医療支援ネットワーク構築と在宅患者等の地域社会参加プログラムづくりに取り組むものであり、高齢化社会の到来に向けた先導性・モデル性が評価できる。また、コミュニケーションツール開発や、デリバリービジネスへの発展等、相乗効果・波及効果が中長期的に期待できる。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。 (評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	H20年度に得られた成果と抽出された課題をふまえ、H21年度に活動を充実・拡大しようとする姿勢がうかがえる。本元気事業を通じて、住民、医療機関、企業、NPO、ボランティア等在宅医療関係者各自の取り組み方の発展と、関係者の協同による在宅医療のバリューチェーンや役割分担のモデル構築が期待され、地域におけるよりよい在宅医療の形成が期待される。以下の点に留意しつつ継続して地方の元気再生事業で支援することにより、本格的な展開が期待できるものである。
	次年度以降は、本年度の取組で得られた在宅医療メイツや地域交流活動リーダーといった人材を有効活用し、長寿医療の先進地域づくりに向け、取組の効率化や民間の自立的な取組も引き出しつつ、取組を発展させることが期待される。具体的には、在宅患者支援体制構築に関しては、本年度一定の成果が得られた取組については自立的に検証を実施する段階に移行することとし、関係者の協力を得た上でデリバリー実証実験に重点化して実施することが適当である。また、医療・介護支援機器の開発については、相当の開発期間が必要であり、製品化により利益が見込まれることから、民間企業の自律的な取組に実施すべきである。在宅患者、患者家族等に対する地域社会参加支援プログラムについては、本年度養成した人材を有効活用の上取り組んでいくことが期待される。なお、在宅患者支援体制の構築に当たっては、介護保険等の既存制度との関わり合いの整理や地域の福祉サービスとの協働・協調にも留意されたい。